[illegible][illegible]乙抄　終

標目

一 [illegible][illegible][illegible]名　以呂波分
一 非季類　同
一 千句作法　同
一 賦物　引句作例
一 切字
一 手尓於葉条々
一 句之五義
芭蕉公翁風當時誹之上引
若干篇及以諸家之句
躰以引句配之

終

誹林良我集標目

四節異名

採用季詞

非季辭分類

千句法式

賦物作例

重訂切字

手尓於葉并五義

誹林良材

四季十二月異名

（春）

正月　青陽　青帝　陽春　蒼天　東君　韶光(セウクハウ)

むつき　むつまし月　孟春　初空月日　履端月日

いはひ月　上陽　孟春　大簇(タイソウ)　端月　王春

月正　新陽　陬月(スウケツ)　同孔(カセイ)　夏正　暮初月　献春

正月は孤陬(ミ)ゆゑむつぶ故にむつみ月ともいふ

それと暦(リヤク)してむ月といふ也　元年の始なり　有

盛水は節(セツ)の初(ハシ)めより　柄(ヘイトウ)寅のかたをさす故に

故に此の月をも云寅は夏の世の正月なりし故

正月は十二律の大簇此月に当る故に大簇ともいふ

二月　きさらぎ　梅見月(ムメ)　初花月　小草生月日　仲春

三月　夾鐘　此月　令月　陽中

正月はのどかなりしと此月きさらぎとて衣(きぬ)更着(きさらぎ)

それより[illegible]きさらぎといふ　奥義抄に二月は帝中の事也

大簇[illegible]律は何也律夾鐘に[illegible]あたるといふ[illegible]

三月　弥生　花見月　桜月　春惜月　季春

中和節　清明　[illegible]　病月

[illegible]　[illegible]むつの[illegible]此月[illegible]

月[illegible]　[illegible]やよひといふ律中[illegible]

[illegible]此[illegible]中[illegible]

（夏）

四月　朱明　昊天

卯月　卯の花月　得名月　花残月

己月　正陽之月　清和　首夏　孟夏　中呂

初夏 余月
卯月といふも卯の花月といふことと思ふべきなり
律中呂とかくも仲呂ともいふ

五月 さつき 月見ぬ月 たちばな月 仲夏 蕤賓
皐月
早苗月といふを略してさつきといふ 律蕤賓に
あたるゆへに月の名とす

六月 みなつき 風待月 鳴神月 常夏(トコナツ)月 林鐘(リンシヤウ)
且月 朔月 陽氷
みなしつきといふことをみなつきといへり又いみ月に
ぞくしては苗つきといふ心もいふ 貞徳説に付
月律林鐘にあたるゆへ名付しと謂ふなり
て此月のなる所なりひあつかのやまなり

(秋) 白蔵(ハクザウ) 旻天(ビンテン) 金商(キンシヤウ) 明景(メイケイ) 爽籟

〇七月 ふみづき ふづき 文ひろげ月 七夕月 旧
めであひ月 旧 涼月 孟(モウ)秋(シウ) 夷則(イソク) 孟秋
七夕に文をかしけるとしゆへにふみひろげ月
と文月ともいふ 夷則は七月の律なり
蘭月 桐秋ともいふ

〇八月 はづき 秋風月 月見月 旧 仲秋
南呂 壮月 中律 雁月
木の葉をつくゆへ葉月といふ也 南呂は八
月の律なり

〇九月 長月 菊咲月 小田刈月 旧 稲刈月 旧
木末の秋 季秋 季秋 菊月 俳
季秋 晩秋

冬

玄英〈爾雅〉 上天 玄帝 律橦 文選羽音

○十月 かみな月 時雨月 初霜月 小春 初冬

孟冬 陽月 應鐘

上冬〈纂要〉 良月〈左傳〉 吉冬 折木 泰正 癸月

世の正月とや

此月を神無月といふハ伊弉冊尊崩じ給ふ月

なれハかくいふ又異説の指ちるとも此月をとて

歌よみにハ人あらハとゆりつかをもし文説師

出雲の大社へより集るとも云り 世説宮嚢

又何林来集抄ニ云一天下九神無月といふも出雲宮

よりハ神在月九神月とも申し秘明ノ説神

あり是ハ彼ふ旅し出雲ハ云此月絶陰

なり周ふ陽無き事をいふ故ニ陽月と云

又ある説ニ湯神の字さ月といふを誤りて神無月

なれハしと神無すふ人申し應鐘ハ十月の律

又異説記にこの事をのこし故出雲ふ

○十一月 霜月 雪見月 神楽月 霜見月 竜月

周の世ハ此十一月を正月とする是を周家ふ

るてハ正月とハ黄鐘ハ十一月の律なり

建子月 黄鐘 天正月

○十二月 しハす 春待月 梅見月 三冬月

季冬 臘月 除月 大呂 極月 親月〈俳〉 限月

むかしハ諸家の仏名とて僧をひくて学師

をくらいくる数の師をむかへ月 とて

思ひして走りまわり

同ク季之詞

い

正 寱積 俳 寱拳 同 俗云正月の寱凍ころ 俳 ㊁

陽炎 かげろふ 起とせり 飯蛸 俳 紙鳶 同 よびのぼり

㊂ 石山祭 俳 一乗寺祭 俳 出る蟇 稲荷祭 初午

虎杖 俳 ㊃ いなり祭 初ノ午 一八 俳 [illegible]

岩蕗 俳 岩梨 同 飯鮓 すしおけ ㊄ 今宮祭

十薬 [illegible] 一子 [illegible] ㊅ [illegible] 鴻巣 俳

十薬 いつく藺を刈 俳 ㊆ 芋苗 生身魂 同 [illegible]

[illegible] 稲の花 俳 いなご 蟷螂 俳 いもこ 俳

いなほ 田虫 ㊇ いなご [illegible] 十 [illegible] 俳 芋 俳

ものゝくさ 俳 稲負鳥 色鳥 鴨 [illegible]

やまうし ひり [illegible] かはづ [illegible]

目白 ひえ川 [illegible]

みそさゞい 稲葉 稲穂 [illegible] 生玉 大坂

ほしろかりる

いてう 銀杏 俳 欅 俳 ㊉ 亥の子の餅 [illegible]

[illegible] ㊉ 稲川祭 と 同 凍 俳 鮸 俳 ㊉ 忌 同

の御飯 六月ト [illegible] 文作林の [illegible] 奏文 月次ノ祭 神今食 是ヲ宮六月行ルト [illegible]

ろ

㊂ 炉ふさぎ 俳 ㊅ 六月会 [illegible] ㊆ 六道

[illegible] 六斎の [illegible] 俳 ㊉ 炉開 俳

[illegible] 炉 同 [illegible]

[illegible]

（は）

㊣ 歯固（ハガタメ） りんのぬかゝるん 鏡餅（カヾミモチ） 羽子（ハゴ）つく 俳 胡鬼（コキ）の子 羽子板（ハゴイタ） 同

胡鬼子（コキノコ） 同 羽子のこと 同 破魔弓（ハマユミ） 三日 初鶏（ハツトリ） 元日の鶏の事也 初夢（ハツユメ） 春駒（ハルゴマ） 俳

初子日 子の日の小松ひく 初寅（ハツトラ） 上ノ寅ノ日 初音 白馬

節会（セチエ） 正月七日 初売（ハツウリ） 俳 初買（カイ） 同 初連歌（レンカ） 十一日

花の… 俳 春の宮 ㊁ 初午（ハツムマ） …る 蜂（ハチ）

蜂巣（ス） 同 初鮒（フナ） 同 初雷（カミナリ） 同 … 同 初… 同

初桜（サクラ） … 萩の若（ワカ）め … 初… 場（バ）

風（フウ） 俳 ㊂ 鎮花祭（ハナシヅメ） … 花錦（ハナノニシキ） 花の雲 花のやさき

花の波 花の滝 花の鈴 …を… 花鳥 …

花車 花御堂の… 花摘（ハナツミ）の… 花軍（イクサ） 風流連 天宝遺事 花の…

春 …この芽 春雨（ハルサメ） 三月 ㊃ 花摘（ハナツミ） 八月 戒壇堂 再帳

梅（バイ）天（テン） 天満天神 …てら花 俳 蓮の若（ワカ）根 同 …ん…

㊄ 花菖蒲（ハナシヤウブ） 俳 花柘榴（ザクロ） 同 …鴨 ㊅ 橋立（ハシダテ） 同

百日紅（ハクジツカウ） 俳 蓮（ハス） 荷葉 同 蓮の… 蝿（ハイ） 同 ㊆ 花火（ハナビ） 俳 初鼠 …

萩（ハギ） …萩 鹿鳴草 …萩の殿 芭蕉（バセヲ） …

… 俳 初鴈（カリ） 八月 … 初鳥（トリ）

特（カリ） 俳 鳩吹（ハトフク） 同 … ㊇ 八朔（ハツサク） 俳 … 縁行器 同

初… 花野 花紫檀（シタン） 俳 初虫（ムシ） 俳 初

潮 ㊈ 波利女祭（ハリシヨウサイ） 室町二有 撥（バチ） 俳 肌寒（ハダサム）き ㊉

初阿蘇… 初紅（モミヂ） 俳 …

… 初雪（ユキ） 初氷（コホリ） ㊉一 沛口（ハヤ） 俳 初鰤（ブリ） 同

㊉二 春と… 春と… …の梅

(に)

(正)庭竈 俳 (二)二月堂 旧 かうり 旧 めんほく 旧 (三)新綿

桑摘 庭桜 さくらふ八 かうし ほけ (六)黄梅 俳 梅づけ 梅ひき (九)新綿

一きりくる (十一)庭燎 かゞりの曲名也

(ほ)

(正)蓬莱かざり 俳 折しさくら 旧 うらでの子 旧 国にて旧 ぞうに まはね

摘 旧 搗栗 旧 榧子 旧 野老 旧 串柿 旧 搗下 旧

海老 旧 右皆かざりのものしえうたすこと 宝引 俳 (三)木瓜の花 かうほけ 俳

(四)郭公 ほとゝぎすの田をさく 子規 勧農鳥 杜鵑 無常鳥 やうちやく 俳 厚朴の花 俳

這ふ 俳 掘り出す 旧 (五)螢 螢火 俳 (七)杏子の花 並に

六角池坊 七夕はれるも 穂屋作 鳳仙花 木瓜の実 俳

(八)穂蓼 俳 蓼花 旧 鬼灯 紅ほゝづき (十)撥 俳 (十一)報

恩講 或は報恩日 忌日なり (十二)星祭る 俳

(へ)

(二)蛇穴を出る 俳 (五)蛇衣をぬぐ 俳 (六)糸瓜 俳 (八)蛇

穴に入る 後の彼岸

(と)

(正)年頭 屠蘇 之口 白散 そのことく 度嶂散 年

徳神 俳 波利賽女と いふ男 俳 年玉 又は 鳥追 旧 挑

燈 俳 挑枝 桃枝 神茶 欝壘 唐の風俗に

桃の木のつれに神荼 欝壘の神の像を書て門にたてる 年越しげ網 俳

(二)東風をさすむとて 俳 鳥の巣 その巣 鳥の囀り 鳥

ところてん 俳 (三)土佐の海 硯石取る 俳 鳥かへる (五)土佐へし

鴨 照射 火串をともし (六)土用 かいり 俳 (七)灯籠 旧 鳥

居 の鷹 (九)橡の実 俳 団栗 旧 ところてん花 旧 紙たきあるに

十 東福寺開山忌 十七日 十一 豊の明の節會 中ノ辰日

物忌 揀らふ … 抜苗 … 採り

冬至梅 十二 年の内立春 年の内 年籠り 俳 年わすれ 日

ち

正 帳團 俳 二 地虫出る 俳 當日 法ちよう日 三 沈丁花 俳

茶摘 俳 かぎちや 長春花 日 四 地主祭 茶ひき草 日

五 粽 … 粽 … 飴ちまき 拜粽

拜雛粽 九子粽 … 俳

九 重陽の宴 重九 菊酒 茱萸帯 菊枕 六 竹生嶋蓮華 俳 七 地藏祭 俳 十 茶の口切 俳

茶の花 俳 千鳥

り

三 りんごの花 俳 六 林檎 俳 七 立秋 けさの秋 秋の初 肇秋

ぬ

五 蓴 俳 十 鵺鳥

を

正 押鮎 二 荻祭 師走 朧月夜 三 遲き日

五 慈姑 俳 七 送火 九 遠稲 十 女三井寺 俳 小

車の花 … 十一 小忌衣 十二 をとこの朔日

わ

正 若夷 俳 若水 俳 若餅 俳 若菜

七種 … 二 若草 … 新草 … 蕨

わかゞへり ㊂ 若和布（ワカメ） 若鮎（ワカアユ）俳 小あゆ 汲あゆ ㊃ わかなつみ 俳 若（ワカ）

楓（カエデ） 若楓 若葉の若葉 わかば 若葉 若葉影 若木立 新樹 新緑
わかその花 木の下やみ

㊄ 忘（ワス）れ草の花 萱草 若竹（タケ） ことし竹 ㊆ 早田（ワセ）作 ㊇ 若（ワカ）た

をご 作 ㊈ わかれ霜 ㊉ 綿（ワタ） わたぬき 作

㋕ ㊣ 門松（カドマツ） そへ松 作 飾り竹 同 華索（カザリワラ） 竈の木 作 竈の音 竈杖（カキ）

松かざり 飾り炭

さほひめの 縁とりたるを 霞 三月に 霞の衣 霞たなびく 霞の網 かすみ 朝霞 夕霞 春霞 霞みて 霞をきる

霞む 八重うらん 霞の洞 ㊁ 春（カ）日祭 上ノ申ノ日 赤ノ赤乃日 帰る鳥

帰る雁 雁（カリ） 一ノ名あり ノの別れ 蛙（カイル） 雨かへる 蟇かへる かはづ 作 ㊂

帰る雁 ゆく雁

寒食（カンショク） 冬至ヨリ百五日 介子推カ故事 海棠（カイダウ） かいどう 海棠の花 かはらい菊 作 ㊃ 堅魚祭（カタクマ）

上ノ巳ノ日 蚕祭（カヒコ） 中ノ丙ノ日 作 かいこ かひこ 蚕飼（カフ） 杜若（カキツバタ） かきつばた

かはほり 蝙蝠 作

かやつりぐさ 作 蚊（カ）

蚊柱 蚊ばしら 蚊遣（カヤリ） 同 ㊄ 賀茂（カモ）祭 足揃（アシソロヘ）一 同 作 賀茂の競馬（クラベウマ）

賀茂競（ケイハ）馬 かきつばた 菖蒲（アヤメ）の日 蛙（カハヅ）ふる 艾人（ガイニン） 蚊帳（カチウ） かきつばたの花 蚊（カ）

帳草（カヤツリグサ）作 かつぎ 同 蚊遣火（カヤリビ） 鹿の子（カノコ） 帷子（カタビラ）作 ㊅ 川社（カハヤシロ）

川狩（カハカリ） 河骨（カウホネ）作 毛（ケ）蒲の穂 同 眼（ガン）皮 同 香薷（カウジユ）散 香薷散 掛香（カケカウ）

賀茂の川狩 作 かまくら 同 紙さゝげ 衣（カタ）かへ 蚊帳 白 作 鹿の子 形代（カタシロ）

賀茂の 作 寒（カン）晒（ヒヤウ） かまくら 同 扇（カザリ） 扇の餅 冬

振（フリ）作 ㊇ 刈萱（カルカヤ） かるかやの花 作 雁来紅（カンライコウ） 錦草 かまつか 作

かりがね 作 一 かり 一食 作 かじ 寒山子（カンサン） かさを 作 ㊈ 桂（カツラ）

宮（ミヤ）祠（スヽヒ）八日 神田（カンダ） 神田の祭 あり 武列 楓（カイデ） 柿（カキ） 作 木練 山柿 木深 柿の

鶏頭（ケイトウ） 甘子 作 榧（カヤ） 作 ㊉ 神送（カミオクリ） 作 百 鉄 神の旅 行くり

あかきたる うつる からむ

神の留主 神むしろ 時雨の … 粘
やり花 俳 冬菊 門 … 霰 門 … 氷 鴨 … 俳 …
紙子 俳 十一 鳥羽の番 … 春日若宮祭 中ノ申日
髪置 神楽 神樂 … 杜丈 … 狩 … 雉子
おりの 石花 俳 十二 … 御幣 … 寒 … 雉 俳 …
おこり 寒酒 門 … 海 門 … 冬篭 …

(よ)

正 よめが君 俳 余寒 … 二 … 鶯 … 俳
三 吉野 … 会式 丑ノ午 俳 … 夜寒 … 十 夜興引 俳 十一
吉田祭 中ノ申日 十二 吉田火祭 俳 … [illegible]

(た)

正 たつこ 俳 生海鼠 … 店卸 … 日 二 … 田螺 俳
玉椿 俳 … 二 … 三 …
桃花ノ節 … 桃の … 俳 … 日 … 鷹 俳 高雄
法華会 … 鶏合 俳 桃葉 … 生玉洞 …
貸条 … 当麻 … 四 当麻ノ祭 中 … 新田祭 …
子 … 当ノ法事 … 竹の
笋 … 蓼 … 鷹 … 五 … 端
午ノ節 … 橋 … 鷹 … 俳
田虫送 … 団扇 … 六 … 竹 … 竹奴 …
七夕 … 七夕 … 竹婦 … 七
… 織女 … 牽牛 …
… 魂祭 … 河 … 根芋 …
… 八 新田 … 秋 … [illegible]

鷹かへる　ねうたつ　田を守　田を守る　田を植る　(九)　醍醐祭
鷦鷯祭　遠祭　だるまのき　茸狩
紅葉　茸　(十)　達磨忌　鰙
茸　(十一)
當土ノ祭　上ノ申ノ日　大師講　鷹すゑ　刀草
鷹返　鷹追　(十二)　大徳寺開山忌　たかゞ海　鴨ヶ酒

(れ)
(四)　まて海　(九)　例幣

(そ)
(八)　蕎麦刈

(つ)
(正)　網曳
(二)　継尾の鷹　白尾の燕　燕巣　継木　(十)　土筆

第一の子の日　ツノ　鷄合　(三)　鷄踏　茅花　(四)　ほうまの子
百舌八形　自モイヘリ　(六)　津渦　(七)　ぬくとし
つえ　(八)　ほとゝぎす　月　(十)
(九)　猿　河酒　(十)　ほその花　頭巾　(十一)
氷柱　銀竹　ほらかき　繼異　(十一)　追儺　晦日

(ね)
(二)　涅槃像　十五日　二月のわかれ　仏のわかれ　猫の恋　(五)
(六)　ねり雲雀　(十一)　ねまつり　ねぶた　燈籠

(な)
(正)　菜摘　河神事　ちようしのそのうちの内宴
(二)　苗代　なわしろ茱萸　菜大根の花　(三)　永き日

夏どなる 梨子の花 ひらくしのくる好みの 棗の花 俳 花咲し

なりとも 同 (五) 内膳司 俵早瓜 山城の国 より迄 夏草 俳 茄子 同

胡桃 同 南天の花 同 (六) 夏枯草 夏切茶 俳 撫子

石竹とこそ 俵あでしと 俳 夏の虫 蛾 (七) すきまめ 俳 (八) 棗 俳

菜種 俳 大根を稲けしまう かりしまく 同 鳴子 (九) 鳴滝祭 九八日

名木散 南天の実 俳 花根 (十) 名木かる

生海鼠 俳 (十一) 中山家 卯月 (十二) 内侍所の御神楽 行幸

(ら)

(五) 蘭湯とわくる音 (七) 蘭 芝蘭 (十二) 臘梅 俳

(む)

(正) 馬騎初 俳 むめ 梅

梅 (三) 麦鶉 俳

(四) 梅の実 向月明神祭 中ノ辰 麦の秋風 麦秋 (五)

むくげの花 (七) 迎鐘 俳 木槿 月令ニ 虫 虫合 俳

(九) 撰虫

梅 椋の実 俳 (十)

麦まく 俳 (十一) 卯ノ日

(う)

(正) 卯杖 卯槌 俳 (二) 獨活 俳 (三) (四) 卯ノ花 卯木 俳 卯月

(五) 鵜川 俳 鵜の巣 俳 (六) 温風 (七) 盂蘭盆 中元 十五日

ゐ

⑧うつゝ草 俳 茴香の実 同 鶉 行かへり細 ⑨太秦牛祭
念仏会 十五日 雲雀橋 俳 ゐのこ枯 ゐのこ寒 同 ⑫温糟
粥 八日或臘八粥 うんざう 俳
⑤井戸地 俳

の

正賭弓 十八日 長閑 のどか うらら 鶯 匂ひ 金衣鳥 鶯の琴 黄鳥 きこのとり
②のびる 俳 ③のぼり 簗 ⑥凌霄花 俳 ⑦納豆
暑き 納涼 ⑧野菊 俳 野分 ⑨後の月 名月 豆名月 栗名月 俳
のちの月 十三夜 野山の色 野山の錦
月の名残

お

正男踏歌 十六日 おくれて 女踏歌 十六日 ②大原野祭 上の卯日

④大原祭 俳 四月 おぼろ花 同 ⑥大祓 晦日 御祓 夏越 祓草 ⑦踊 をどり
荻 荻の声 荻原 荻の花 俳
をみなへし 女郎花 ⑨岡崎 おかげ参り 俳
⑩御鳥 一向宗に有 大社神事 十一日 ⑪大原野祭 中の子日
御火焼 俳 ⑪御祭 十七日 南都春日祭 ⑫御仏名 十九日

く

正元日 日のはじめ 年の始め 年の初め 初春 鶏旦 年の朝 あらたまの年 年立かへる 去年 今年 歳旦 年玉 元日節会 節会 水襖 腹赤 贄 同 栖 楽人 国栖奏 七曜 御暦 蔵開 具足鏡 同 ②くゝたち 俳 茎
くれの春 暮の春 行く春 春のくれ ③暮の秋 ゆく秋
春惜しむ 春のなごり 残る春 枸杞 ④灌仏 八日 仏生会 浴仏 五香水 龍花会 仏のうぶ湯

久世祭 中ノ巳 (五) 薬玉 … 長命縷 … 薬日 といふ
山枇の花 水鶏 (六) 鞍馬竹切 雲の峯 (七) 茅花
観音草 常山 蜀漆の花 (八) 葛 葛ノ根 …花
茸 … 下り築 くられ 九 鞍馬祭 九月 呉服祭 八日
… 津ノ国 九月 小袖 茰 久年母 果李の実 三月
池田… 十七日 …
胡桃 くれの秋 九月盡 秋と惜む (十一) 宮毛忌 十二月 鯨
… (十二) 薬喰

や

(正) 厄神参 正月十九日 柳 …
梅 紅梅 … 中梅 … やぶ野 … (三) 薬師寺 最勝会 七日 天武天皇…
… (二) 八宝
山吹 酴醿花 揚梅の花
… 十月

与市 … (四) 山崎祭 八瀬祭 …月 辰ノ 山吹の花 (五) 薬草摘 …
… 奥深の… (六) 揚梅 (七) 柳蓼 …
… 益母草 … やりて花 … 柳 (九)
八幡放生… 擅 … 柳 (十)
… (十一) 山神祭 上巳ノ日 (十二) 八幡安居頭 十五日 …

ま

(正) 松やし … 萬歳 … 松の花 …
… (二) 馬刀 (三) 間引の花 … (四) 松尾
祭 … 眉 … (五) 松本祭 … 刈 … 天蓼
… (七) 摸… 俳 … 人…
(九) … 豆… 黒豆 … (十二) … 孟宗竹 …

け

㊣ けふり草 俳 ㊂ けまん草 同 ㊃ 罌粟花 同 夏へ 同 夏花

㊄ あつかけ甲 俳 音 梟の巻 音 蕙 俳 花葉ニ毛を籠る ひとへきこえ

鷹 獸將 ㊇ 鷄冠花 俳 茶けむり毛見 同ノ毛 俳 あをうつる ㊉ 下

元日ト書 けさの岸 俳

ふ

㊣ 太箸 俳 ふてつゝとおね 同 ふ乃 船祭物 同 船玉祝 同 筆試

出ぞめ 俳 海苔 同 えたりの花 同

吉書 ふきのたう 同 ㊁ 鮒鱠 同 ㊂ 夜

夜あくる 夜つき 俳 夜あそび 同 二葉ふたみ 同 ㊃ ふた草 書草 俳

ふらち夜 同 夜の名 同 夜ぐち

牡丹 俳 ふじひめ 花王 ㊄ 粉團ヲ射 唐ノ故事 滴粉團水團巢 藤袴 五月 俳

ふるるま 富士詣 俳 ふじ市 ふじの人穴 ふし 同 まつり かくし 西 同

㊅ 朝顔 姫顔 ㊇ 芙蓉 俳 水芙容 草芙容ト ふところそし 蒲萄 ものつくり

わくら葉

㊈ 不堪田奏 七月是ハ諸国ノ田ノ損亡と目録して奏するなり 佛手柑 俳 ぶんどう 同

冬ちかき 冬ど冬 ㊉ 冬こもり 冬されい 冬木 冬構 冬牡丹 俳

紫漬 魚ともゑき衾 蒲團 俳 冬籠 冬ごもり ㊉㊀ 吹草

みづりの 寒 ㊉㊁ 札納め 俳 ふくと 同

こ

㊣ 去年今年 こよみはじめ 暦ひらき 俳 御斎 八日

東風 氷解 氷むすぶ 木乃葉 ㊁ こゝろよし 俳 ㊂ 辛夷

四五九 氷のひま 小鮎 小鮎 小米花 俳 こで酒 同 小梅の花 同 ㊃ 更衣 一日 ㊄

小鯵 俳 ㊅ こう遊びとこゝろ 日 ところてん ㊆ 御輿 十八日 ㊇ 駒

蚕 御輿の祭 御霊祭 俳 十八日 金剛草 衣うら

碪 こよみこね 同 こおろき 次栝枝 小あじ 俳 小鷄 俳 ひとしほ 濃き

おほすゝき

九 御香宮祭 九日 伏見 木幡祭 九月 十 木枯 十一 こからし 俳

氷 うすらひ 十二 衣賦り 暦配

(え)

七 犬子草 九 ゑやミ草 秋の胎くさし

(て)

正 朝賀 朝拝 奏賀 小朝拝 朝覲行幸 二日 天子年始ニ上皇并母后の宮へ行幸ナリ

二 天王寺聖霊会 廿二日 蝶 小てふ 胡蝶 三 天台禮拝講 十一日 十二日 俳

丁子草 同 四 手鞠の花 同 紅でまり 五 朝露草 同 蟷螂 同 六

天満天神御祓 廿五日 鉄線花 俳 九 天満流鏑馬 九月五日 大坂

(あ)

正 県召の除目 十一日より十三日マデ あをうま 三月よりわかきものゝ

ひゞき 二 虻 俳 麻まく 薊 俳 青芥子 同 三 粟津祭

三月 俳 浅草祭 十八日 江戸 馬酔木ノ花 杏子の花 俳 あづま菊 同

あさつき 同 四 青簾 更衣ノ節ニかけそむる あはせ 俳 青麦 同 葉見草

葵草 二葉草 葵かつら 青嵐 あさぎの花 五 あやめふく 菖

蒲 あやめぐさ 根 あやめの湯 あやめの節 あやめ酒 紫陽花 四ひらの花 鵯菊 俳

同うけふ 早苗さし 樗の花 せんだんの花 俳 あふぎ 俳 浅瓜 同 白瓜 同 丁瓜 同 青梅 同

もち梅 俳 杏子 同 青山椒 同 粟まく 俳 稗まく 麻まくとんぼ

二月なり

鮎 六 熱田祭 十一日 俳 愛宕千日詣 廿四日 あはせ 同 汗

扇 麻地酒 俳 青鬼灯 同 麻 桜あさ 夜あさ 麻刈 俳 青薄 同 秋かわ

秋を待 まね秋 秋をまつ 藍刈 立秋八月迄 七 天川 銀河 銀漢 銀浪 星合 銀漢

秋さる夜 七夕の 星つし あふぎおく 麻牟花 八 秋の宮 中宮

のゆき 三月ごろ 葡萄 俳 江鮭 同 九 青瓢子 同 なのうつり 作る 青こがね

芦の穂わたの網代木 鵜をとりかふき 秋なは
網代 網代守 わしろ人 わしろの床 ⑪ 霰 あられ酒も えきし あつき里 俳

さ

㊣ 三元 雑煮いはふ 俳 雑煮をいはふ日 わら弓 三毬打
左義長 さいあぐる 佐保姫 三月に 山椒の皮 俳 ㊁ 嵯峨のはしら 掛炬 俳
十五日 さゐさいまつ草といふ ㊂ 嵯峨大念佛 月十五日 桜貝
桜魚 桜鯛 桜うぐひ 桜 山桜 名ノある桜 桜草 九りん草 七草も
三月尽 ㊃ 榊とり 嵯峨まつり 中ノ午ノ日 さくらんぼ 桜の実 俳 ㊄
五月雨 さつきあめ 花 黴 黴雨 俳 さくらの花 早松茸 俳 榊
皐の花 月 さつき躑躅 月 早乙女 早苗 青田 田乃草とる
㊅ 座頭の涼み 十九日 早桃 俳 座摩祭 月大坂 廿九日 小角豆 月

㊇ さび鮎 落ち鮎 ㊈ 柘榴 俳 さいうし 月 ㊉ 犀川の祭 五日
山茶花 俳 さゆる月 さむき夜 さえさえし ⑪ 朔旦乃
冬至 十一月朔日冬至を わくらとしいふ 里神楽 ⑫ 斎宮ノ鶴 大晦日ノ夜 掛乃 早梅

き

㊣ 祇園削掛神事 俳 元日 寅ノ刻之 毬打 月 玉月 ぶりぶり 月 一名 むきうつしといふ 是を
きそはじめ 月 御忌 月 廿五日 ㊁ 雉子 きさらぎの きぎす 鳴る 狩 立
帰る雁 ㊂ 曲水の宴 金鳳花 俳 菊ゑんめう 月 ㊃ 鴨足
藤 月 桐の花 月 枳殻の花 月 ㊄ 金銀花 月 忍冬之 祇園の
御輿洗 俳 ㊅ 祇園会 七日 十四日 ○七日 長刀ほこ 函谷鉾
孟宗鉾 あるこれ 月鉾 鶏鉾 人形 菊水鉾 菊の
放下鉾 人形 山の 船鉾 三韓

岩戸山（イハトヤマ） 日本記神代の巻のあまてらす御神岩戸を[illegible] 白山（ウラデヤマ）
[illegible]
[illegible]
郭巨山（クハクキヨ） 釜掘山あり [illegible] 孟宗山（モウサウ） [illegible]
蟷螂山（キリ） 立車よむ [illegible] 白楽天山（ハクラクテン） 琴破山（コトワリ） [illegible] 蟷（カマ）
[illegible] 大子山（タイシ） [illegible]
鉄骨の[illegible] 木賊刈山（トクサカリ） [illegible]
芦刈山（アシカリ） [illegible] 花盗人山（ハナヌスビト）
[illegible]
[illegible] 山伏山（ヤマブシ） 天神山 二
菩薩二〇十四日 橋弁慶山（ハシベンケイ） [illegible] 鯉山（コイ） 三[illegible]
[illegible] 平家物語[illegible]
[illegible]
[illegible] 黒主（クロヌシ） [illegible] 役行者（エンノギヤウジヤ） [illegible]

[illegible] 鉢叩山（スカ）[illegible]
[illegible]
[illegible] 鉄骨山（クハンコン） [illegible]
玉簪花（ギボウシ） 俳 [illegible] 日 七 北野御手水（キタノミテウヅ） 俳 [illegible] 乞巧奠（キツカウテン）
[illegible] 千日詣 俳 [illegible] 桔梗（キキヤウ） [illegible] 蟋蟀（キリギリス）
八 [illegible] 九 北野祭 [illegible] 貴布禰（キフネ） [illegible] 俳 菊（キク）
菊合 [illegible] 木の実（ミ） [illegible] 俳 [illegible] 日 十
菊枕（キクマクラ） [illegible]

ゆ
正 楪葉（ユヅリハ） [illegible] 俳 [illegible] 弓はじめ 俳 湯殿始（ユドノハジメ） に [illegible]
[illegible] 二 遺教経（ユイキヤウキヤウ） [illegible] 十五日迄 五 百合（ユリ） [illegible]
[illegible]
[illegible] 六 夕立（ユウダチ） [illegible] 夕顔（カホ） [illegible] 俳
[illegible]

㊈柚 俳 花柚べし 柚みそ 接ぐ柿 ㊉宮垣 俳 宮竿 ㊏宮雪
ちくの花 宮佛 宮とうし 宮嵜 俳 ゆきのふ山

㋱

㊣めさし ㊄めとみれ ㊇名月 名ある月 こよひ月 芋名月 俳 小望月
望月 十六夜月 寝まち月 居まち月 小鈎月 端正月 玉蜷月 のり弓 法月 新月 玉兎 夕しる ㊁ 和布刈神事 雲

㋯

㊣三ツノ姫 水とり井 水ぬるむ 三物 三物俳諧 ㊁水 口きり ㊂巳ノ日 後ノ巳 みそぎ 水の尾祭 九月 壬生念仏 俳 六日 ㊃御影供 弘法大師 三月廿一日 三ツ葉芹 俳 しやうぶうけ 日 ㊃水屋縄 俳 三日 罗昔 みかよる月 三日夜餅 ㊄水鳥の巣 水鱧 俳 水 鯖 ㊅御手洗清 俳 乳の海 みなしたで 海松 すぎころ なくさめ

㊆みつね入 本山七月 当山八月 みつゆけ 峯 あうのすく みそぎきれ 花 俳 ㊈みかん 同 密柑 俳 みづきの木 同山荼木 ㊉御影講 十月 日蓮上人 忌日なり 都鳥 うきね ㊏三ツ布 市 の 霰 ㊁御紙 上
下半月なり

㋛

㊣四方拜 真言院御修法 八日 獅子頭の舞 俳 十五日 下り見 星 とのへ 天地四方を拝し 七宝 祥といのり 上元
十青 白魚 ㊁積塔 十六日 社日 同 燕 蚬 俳 鹿角落 ㊂邂逅
の番人 高城嶺 ひろうるん 芍薬 菊花 俳 紫の花 ㊃新茶 俳
菜と法る も 俳 芍薬 新ひとる の 宮和 射干 同 薔薇 日 棕櫚
の花 鹿の角 俳 ㊄下野の花 ㊅清水結 紫藤
俳 ㊆鯖 同 ㊇こもとおり 紫菀 初しぐれ 時雨 時のはなき 村時雨

鴫の羽かき 新理する 鹿〔鹿笛 俳〕 すゝき 【九】 四ノ宮祭 十日 下
島原祭 俳 十日 田河祭 十三日 城南寺祭 同 九日 鹿谷祭 九日 推
茂推 思ひ草 新酒 【十】 十夜念仏 俳 【十二】 霜月 ... 夜

ゑ

【正】 恵方棚 俳 夷参 同 十日 【三】 ゑび祭 【六】 江戸山王祭 俳 十五日
閏天 俳 【七】 槐の花 俳 【九】 椿の實 【十】 恵比須講 九日

ひ

【正】 毘沙門切徳経 俳 常陸帯神事 十日 麻疹 のぼし 【二】 比良
良八講 ひばり 俳 ひばり籠 彼岸 俳 彼岸桜 同 【三】 比良祭
十五日 俳 飛花落葉 丁鯑 俳 【四】 平野祭 申ノ日 廣瀬祭 ... 俳
日吉祭 中ノ酉日 美人草 俳 花芥子 【五】 百草と戦 莧 俳 枇杷 俳

ひとむしろ 【六】 氷室 一日 氷室の御調 氷のためし 氷室の雪 一夜酒
こさけ 醴ノ字也 あまざけ 冷汁 俳 菱の花 同 攪ハ 蒜の根 同 蛭魚の
花 俳 【七】 楸 一葉 ひとは 一葉 桐 ひやゝか 【九】 ひよん 俳 干鱈
樋 【十】 枇杷の花 俳 氷魚 【十一】 平野祭 上ノ申日 日吉祭 中ノ酉日
但し日吉祭山科祭枚岡祭吉田祭ノ祭ハ おこもりね
年に二度 ... 日ばかり 日蔭のいと
日かげのかつら ... 新嘗 ... 一文字 俳
ねぶかは ... 葱 ひとひ

も

【正】 百千鳥 【二】 ところ 俳 海雲 同 【三】 桃 桃の節句 雛 俳 桃の
木蓮花 俳 【五】 藻の花 藻を刈る 【七】 文珠會 八月
東寺 西寺 行 桃の實 俳 【八】 木犀の花 同 一名 桂花 鵙 ...
【九】 紅葉 ... 鯡 俳 【十】 紅葉 ... 色

(十一) 杜本祭 上ノ申ノ日 (十二) 餅搗 俳 餅花 餅つき

(せ)
(正) 芦振舞 俳 (三) 千本念仏 御寺の花 さらねり 仙臺萩 八日 俳 ぜんぜ
まい日 (四) 千団子 日 (五) 蝉 石菖 俳 (六) 蝉丸祭る 日
(七) 錦兒 朔日 洒涙雨 七月六日ノ雨八 洗車雨といふし 仙翁花 俳 摂待 朔日
(九) 泉涌寺舎利會 八日 摂待 俳 ぜんぶんの宮 日 仙蓼
節分 日 (十二) 節分 いそしてありらし ひいらぎ

(す)
(二) 雀の子 俳 すゞめの藻 杉菜 俳 (三) 住吉塩干 俳
蕉摘花 俳 菫 つかすみれ (四) すみれ草 (五) 末摘花 紅の花の異名
住吉御田植 廿八日 (六) 涼風 すゞり 俳 住吉の御祓 晦日 俳

すゞし躍 俳 (七) すまひ 相撲 日 鈴虫 相撲 (八) 菅大臣祭 住吉
十七日 ますほのすゝき 鱸 ほやすゝき まそほのすゝき あかほ 九 (九) 住吉
台の市 ナラ宝の 雀蛤となる 月令 薄ちる 冷し 住吉
の祈遷 俳 香 薄り 十 (十) 炭竈 炭賣 炭俵 俳 すゝはらひ (十一) 水
仙花 金盞銀臺 (十二) 煤掃 俳

不成季詞

(い) いなひかり 和泉式部 伊勢桜 栗 牛房
いちまめ みそまめ 繊菜 つむじとして
(ろ) 鹿野園 (は) 花紅葉 花のみちの色いふくさらぬすゝしとてうる
おもてうらのあらぬ秋の花すゝむ 花田 こなり
かもしかさまわれて秋のえし 花のほし あさ
花ちる 花丁子 花ありけ 花あり 花死 花ざかり 花むこ
花もあ 花の舞 貞徳 花すもう 梅林和尚 敦王川
のはる 錦

蛤わり 歯刈 寒女 初風 柞の森 (に) 鳰鳥 苦梅
にごり酒 (ほ) 干わらび 干棗 干菜 干大根 干ふくべ
干魚のえ (へ) 苗商人 子孫のよし (と) 灯の花 年の華 橡かざしの
潤 (ち) 菜の花 千種 ちまき柱 (り) 柳下恵 御影

(を)

若菜の名 萩肥 (わ) 色の草 蕨餅 わらび縄 (か) 岡の若菜
かまど風 寄金 [illegible] 干瓢 雷 鴎 貞徳云 新しかるべし
拘椎 栂 桐 あし 椿の花 (た) 竹の子笠 蛸の桜 奥 玉虫
猫のみそぎ 鵲の巣 (そ) そぞろ切 (つ) 鶴の巣 椿 作り花
土生姜 (な) 浜の花 菜種まくは新し 菜畠 菜食 菜汁
菜漬くら 菜摘 河 刈木の芽 (む) 梅壷 瀬 貞徳云新なり 花たちめし
梅の宮 椋 梅干 いろふしすれし ひげ 花は去
[illegible] (う) 鶯餅

(の)
野あそびのわけ行 (く) くちなし 葛袴 葛餅
(や)
楊柳 鉄音 柳の浦 柳の水 御影 柳橋 柳まろ枝 山のいと
薬猟の菊 薬 (ま) まこも 眉の霜 (け) 芥子 (ふ) 藤原のなゝ
藤原氏 富士の宮 藤つゝ 藤づら (こ) 黒牡丹 [illegible]
ごま 木の葉 貞徳云ねよりてくるね 詞の花 貞徳云
句所おもしろき新なり わかれ新し

(わ)
網代 扇風 網代車 われ釜 われ餅 われ比丘尼
塩梅 青葉 荒細 小豆粥 いろふんわり (さ) 桜
町中 納涼 桜河 桜木の枝 (き) 楓廊 伏見なる [illegible]
橘皮 きらく 枳実 (め) 姫 蓮花 銀杏 [illegible]

(み)
鵜の瀬 このわ [illegible] 都鳥 貞徳云 [illegible]
[illegible] (し) [illegible]

しをれ花　しをるゝに咲花也　しのぶぐさ　貞徳説云〻抜ハ紙なり
簾(レン)の間(カン)日陰　簾のすきまより日影をいふ　茶席〻中ん　是ハ雑なり　是を季ニ入る事いかゞ
夫の題ニおかれ　あれハ俳ニ雑し　㊄　樒(シキミ)の木　㋪　雲雀(ヒバリ)毛　兎毛　月毛　尾花　わしも春なり
日陰(ヒカゲ)　日かげかづら　冬也　㋱　餅ばな　餅つきして八日より後也　とふすむ時
蜻蛉(セイテイ)　六角山(ロッカクサン)　冬也　㋜　[illegible]　数珠(スズ)の花　年中二七十余度也
㋝　末摘花(スエツムハナ)　末摘の花なり　夏也　数寄(スキ)　貞徳云雑也

猶此外あまたの書に引見し
られつる季の詞をあつめとらへ
かきさのみ多くしかるべし
とも此数をつくし猶も考て
もろもろ一季ともに定まるへし

千句之法式

一千句ハ発句数十句也　四季のわかちやう
春之句三　夏之句二　秋之句三　冬の発句
二句也　又発句十韻ハ花ハ一月ハ一
なとめつらしくせんかたてとられす
もくろしるすなしきこと　四季より一句附ハ
百之通し

一千句のうちハ中ひよ切字の月三よりめつ
らしき発句と付文をへしと〻に
仕てもくろしうしうねなり

一 季縁の発句はかれ〳〵としける比発句
小得物之二せりぬれ発句は能せ者ず之
是も物意庭鶯梅なとやうれ表らし
めはしくせんとて俗を入る是をとも
季取の入る事はせぬならわし

賦物作例

それ俳諧の賦物ハ定る文字もあらされハ人丹ふる
ケふもやさしを只発句に語る俳諧の興ある字をとれハ
面韵よくよいたる也と知るへし

即当流の発句をかくこれを入られても能からん
然とも古人の作りおきしまゝ耳に今こゝと記ス

何茶(チャ)

物花や月さまし雅の紀朗(アサホウテ)
是ハ紀茶(アサチャ)と云る発句の中卯と字と何とと述る之

餅(モチ)何

一なや目かりしひらく花の色

是ハ解むとれる之句中に幾字と下に返之たと句みて上何何下のむすそへきるへし

一字露顕(ロケン)

あらしふく霞ぬやうき松に何鳥(ホトヽギス)

是ハ霞(カスミ)をあるとあれる之句の中に無字(サリゴ)を一ツ入れて例の物に顕(アラハス)なり氣(キ)と木(キ)ふなし名(ナ)と菜(ナ)に露(アラハス)す餘(ヨ)ハなそらへ知へし

二字返音(ヘンオン)

籠(カゴ)でゝふそし孫も高(タカ)し借しされ

是ハ句中のさすとかへして杉(スギ)とすし作之音をとられす他ようすめ此作をまへし

三字下略(ゲリヤク)

月ハ風も川歌(カナ)ハ月数(カズ)の瓶(カメ)りれ

是ハ句中に仰の内の文字を略(リヤク)されと人(ヒト)よりく中略上略罷ま上下略五字上中下略も此仕例ふ在様さ内へし此略をもまへ准之へし

一字借音(シヤクオン)

面白ハ山の額(ヒタヒ)の雪ありられ

是ハ句の中の字かやれあかりと毛(ケ)とさうしむ句の中の音と一字借(カ)りてけふ、賊色さもの名を同(ヲナ)く知猿のよしよりされ物よりさもち露題よりされとも借(カル)音と云(イフ)に顕(アラハス)訓(ヨミ)

この外なり続く此ひ知へし

二字除扁(チヨヘン)

紅門まつて都へのがれ鶉(ウヅラ)の巣(スヨ)

是ハ句中に錺の字有と除けて留に成る或ハ拾ノ有と云ハ
又ハ興ノ字と用ゆる事皆此くなり

他流

霞やらむ弁母よるね先月

是ハ句中の毎ノ字本と海え梅と此今し字に於之
右此外に轉作より世にひく之賊拙おり侍是おハ千句
万句ほと目於のるく毎卷れ拙におもひ為鄕喜く
拙吟ふかくかへし賊拙く氣様も字通之義なし
よりく飛にちぶんあり

切字の重訂

并ふ　三世のし　ぬの字刹　大廻とまり

三段切　三字切　二字切　玄妙切　中来北岑

切字ハ○そ○ぞ○よ○ぬ○や○け○ぞ○し○む
○らん○けり○めり○たり○やハ○かハ○こそ
○なり○なお○をし○いく○あれ○あるる○かも
○けり○さぞ○いさ○らぞ○それ○けし○らん
○とも○かとも○をりも○もがな○ハなし
○ずし○かし○さぞかし○かな○いざや
○らむ○ぞと○いかに○ちて○とせん○下知
下知とふハあるひハ花の香あり月よりこそと
又物とよひ付たやけれこその下知いふなど
あるさかあるもしみな切字に分れなり

○三世のしの事

らし　けらし　めかし　なかし

これハ色葉之切字なれバ是へ△外にも△てにも

あらも　留也

　憂し　青し　恋し　寂し　程し

これハ形容なり切字にならるゝ

　おのつへし　妙ぬへし　何しく　みえし　猛けし

これハ未来なり切字ニ用也

○ぬの分別の事

雪降て花かうれぬ冬の山　是ハふのぬ也

雪消て花かうれぬ春の山　是ハをえんぬ也

ふのぬハこれ字にならんをえんぬハ切字なり

たとへハ（行キぬ　（咲キぬ　（ちりぬ　（のこりぬ　（笑ヒぬ　平ぬ

　行カぬ　咲カぬ　ちらぬ　のこらぬ　笑ハぬ　ふのぬ

あるひハ忘れぬ　忘れぬ　忘れぬ　晴ぬ　ぬれぬ　忘れぬ

一句ニ其によて平ぬにも　ふのぬにもまかへし　おつべし

至宮の句よてますでゝ志うへし

○大廻しの事

あさかほて喜自然とうく鵯

　雪うふ風のこちら行　松の風

居よりて　あさかほて鵯ほまして晴うゝ

　雪晴て晴うゝ

　雪うふ風のこちら行月の松

なりよ月の雨と秋もてハ晴りうを　行く給あり

○とまりしの事

くぐらすの人まへあるとさて始

発句よりふとくとかくあるとなり

○三段切の事

花ハひな柳ハ髪をさはなせ

入月西ハ峯の松風谷のおり

○三字切の事

むかしなわしやとえん夜れ庵

も郷しよつろうづはかれ松の雪

○二字切の事

おく人ハ茶花しろうん風も卯

○玄妙切発句之事

月みてしうやとおりか名月

名然ある此月やろうとお月

発句にハ上おそやの字郷よる字見なりつ句の中よ

おやとろそやとろいねどしてらんとへ○うれを

ハやらんいをやらんと事して玄妙切なり

○発句やなしかのある句まへ

てふ若ましてまるへし

手尓於波 并 五義

○めく留をさく字の事

ぎいばもがぬ

此五つの字をにごりて読なり 又 四声に云 或ハ

なるゝは入 むすびて よむ くのこゝろ也 虚字(キヨじ)なる

ほうし詞ハ上よみの字を入字なりてすこしも濁らず是

も句作りよう有べし

○上よりおこる時

げぜでねべめれ

此七つの字を上よりおこる時下ハにごりて読べし

○又同読の事

ぐくずばぬぶびゆ然

此九つの字を上よりおこるハ三音と読(とう)候也

○前も上備へ上備へたる事

まよそ内字 其外は書ハ子細有

此句にも三やめてハなしくるゝ内に入べし

けふまゝ入れ 其外は書ハ子細にも

此句のみまで限りて かの本の中に入りして分別

わるべし

○上よりのほひの文字ありてとも読べし

めん字とも云也 かゝるやうに文字句に

て読べきなり

○下の句より備へ

三句めならば 何の部へこそ入り

は続よりハ六字よくよみ候とよみ候べく
○下の句てには
わの世のハ代ハらぬこまかにて
とこハといふ字を上へ文と下ともよめば是ハ
今の十字の事とよくきく
○しそとひくをじ字なりきな
ちりて春行く今花咲かり
雲行への月の山の端
此二句ハ別に人我見し
○らん留かます
けんあんまんえん

これハ一字をねりてとにうくひのあらはれ
かけんはつんすんけうるみの月やくそらうくひ八
のをとられてきめけくばかりやんまもうく
ひの字のれもりすゑ候
○さしのらんとりてあわり
わか袖をそうちす月をする庭
これハ治定しそてをねるから
○治定のかりけれぬす
夢のうき月も今宵ハむかしそ
○とはふややかりこえやもしく
山乃端のすがた庭しゆ實

一ゝ　まぎらはしき句といふ事あり
むかすんでひまもと見えて
山さえて月をこそまたれけれ
○正文　常文といふ事あり
正文の句
富士まし　富士の[illegible]にも[illegible]
常文の句
吹まけし風と野中の夕まで
○邪正と句といふ事あり
新もみぢ水田の[illegible]あらはれて
此句邪也

名月や[illegible]秋の[illegible]にて
此句正也
初冬の[illegible]邪りして見すぐし
[illegible]とすと絶
○冠まん　襟まん　沓まんすといふ事あり
冠まん
[illegible]をされ[illegible]袖[illegible]て
此[illegible]ても一句ゆえ　此五文字[illegible]
花[illegible]
襟まん
[illegible]似衛く

うつ墨にきらふなれハ一文字をひきかへん
皆これ
ある哉のたまくらしてもされ間
下の文字を直してもよしかしやうに案を
わろし
初て一句の体をしらずてうくひす
むかしの句に詞つかひわろき体の句にし
ここひくわ詞にて作る句たねし
其外ね初て曲て句の句も天に金を
句作りとれば哉しる作のまわりかく
分別わるかしきれとふかけりも又ハ
はかなけれともかゝらず

○はね留の事
なりけり
此字をそへて留侍りぬ是ハ上の句の第く下の句
まてをそへ字よせたれ　上の句より先すねなし
もかハ
此二字をそへて留侍り
○下の句中のての事
潤を残て舞かふ袖
如此そへて事し
梅よ外ほく舞やふとする
かくの下くの句わるくハ　後ハ不七文字くし

體あることをいひて中につらぬきたるをかしみかよひ
て草らさするといふ句。いざ。草得たりとて思
右のひらき面八面八句の内にしハ
可なりし
和歌に五体あり連歌に八体あり是をとりて
俳諧をもあらはしたる事をいふなれ
又体といふを

遍序題曲流

宵やとらう山のあらしおん
おほつかなくも鳴きそれ鈔

右乃五義ハ寂蓮法師作りしと當流これを
うけつがれより北村氏法眼も運あり
さうさまにて作りまかりて謂のあまりに
之続ふこれまで付るといふとも此のを
ひらくとぞしれかくのみぞ文詩の題目破
題比喩にあらく見るまうなしひのり
京極黄門の記にも作り五義にいひくハ
いゑし乃傳ありとあらくさよく流ともも作るよし
あるかなすのに定家卿もも説しおそりつる
せかく殊文つしませまひしハ冠頭詞眼
心とやうれ作るときハ去る乃取りの
くりましく在通く仮をとくくわん

夢想之會

百韻之内夢と云字と申ても
あまたあれはやけしき事にてさふらふ
如し

夢想に下の句と書る所は脇より切字を入て
発句のやうに作る也句數も百一句に作る也
夢想の句の時は第三と云て第一句より作る也
ゆるしらん[illegible]脇の
句と第三て[illegible]くり

ヲモテ
面八句ヲ十句にして名ノこりヲ六句ニ
作る也 百十句乃内に名残ヲ四句ヲする

本式之會

百韻の内月と花と鶴を掛て此何の稱
いつれも趣と作るへし
夢想 本式トモニ 同じ

此外いろいろの搭式古今の明搭の筆
そふらし先達の書とむひつ給ひかきおきれ
有けれ共萬葉集市廓に花やかなると見
出すりし心やさしき振舞し許稱して
芭蕉先人の足下ふむなし松竹の
他の流派を結ひ一家を構え給ひ潤色
とちつゆをまへからふ

元禄十丁丑年九月念五

御溝水頭之一漚

鷺水

京華 京極銅駝坊北
謝書肆 井筒屋庄兵衛
重勝